

公開シンポジウム



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

現行の学習指導要領の問題点と次期改訂に向けた課題

—よりよい学校教育のために—

共催：

上智大学教職・学芸員課程センター
学習指導要領のあり方に関する研究会（あり方研）

日時：2024年9月8日（日） 14：00～17：30

開催形式：リアル対面と Zoom オンラインのハイブリッド形式
会場：上智大学四谷キャンパス 6号館 3階 6-301 教室（定員 200名）
Zoom オンライン（ウェビナー定員 500名） **要事前申込**

※参加は無料ですが、下記 URL（または QR コード）から事前申込をお願いいたします。

<https://x.gd/LsaW2>

（会場での直接参加も事前申込制としますが、会場に余裕があれば当日参加も可能です。）



現行の学習指導要領が改訂されてから5年以上が経過し、そろそろ次期改訂に向けた検討が文科省・中教審で始まる時期が到来しています。学習指導要領がどう改訂されていくかは、今後の教育の現場に大きな影響を持つことになります。

そこで、カリキュラム研究者が中心になって、現行の学習指導要領の問題点を明確にしつつ、改訂に向けた課題を明らかにしていくためのシンポジウムを企画しました。希望や夢を持てる未来の学校のための議論ができればと思います。教職員の皆さんも、教育行政の関係者の方も、学生の方も、教育に関心を持つ方はぜひご参加ください。

プログラム

13：30～ 受付

14：00 開会 総合司会：栗原峰夫（上智大学 教職・学芸員課程センター特任教授）

14：10～ 報告・全体討議

○第1報告 広田照幸（日本大学）：主題の設定——社会の変容と学習指導要領改訂

○第2報告 篠原岳司（北海道大学）：分厚くなりすぎた学習指導要領と大綱的基準性の問題

○第3報告 黒田友紀（日本大学）：カリキュラムオーバーロードの問題

○第4報告 澤田稔（上智大学）：各教科・領域の目標における「見方・考え方」の課題

○第5報告 川口広美（広島大学）：未来／社会にどのように向き合うか

コメンテーター：奈須正裕（上智大学）、佐久間亜紀（慶応大学）

登壇者プロフィール（登壇順）

広田 照幸（ひろた・てるゆき） 日本大学文理学部教授



1959年広島県生まれ。東京大学で教育社会学を学び、南山大学・東京大学で勤めた後、2006年から日本大学文理学部教授。歴史と理論を中心に近現代の教育を考察している。『陸軍将校の教育社会史』（1997年、サントリー学芸賞受賞）、『教育改革のやめ方』（2019年）、『なぜ学校は退屈でなぜ大切なのか』（2022年）など著書多数。

篠原 岳司（しのはら・たけし） 北海道大学大学院教育学研究院・准教授



1977年生まれ。博士（教育学）。専門は教育行政学、学校経営論。教育ガバナンス、学校自治、分散型リーダーシップの理論を軸に、現代公教育システムの変容や教育の地方自治の現状について考察している。近年の主な業績は「教育経営学」（下司ら編著『教育学年報11』、2019年）、『専門職としての教師の資本』（監訳、2022年）等。

黒田 友紀（くろだ・ゆき） 日本大学理工学部／日本大学大学院総合社会情報研究科准教授



1976年生まれ。東京大学大学院教育学研究科で学び、静岡大学を経て、2014年より現職（2022年～大学院兼任）。専門は、学校教育学、教育方法、教師教育。日・米・加の学校改革について研究している。著書に、『教師の声を聴く』（共著、学文社、2016年）、訳書に『スクールティーチャー－教職の社会的考察－』（共訳、東信堂、2021年）など。

澤田 稔（さわだ・みのる） 上智大学総合人間科学部教授・教職・学芸員課程センター長



1962年京都市生まれ。京都府立高校教員、大学非常勤講師等の後、2009年に上智大学総合人間科学部准教授を経て、現在同教授。批判的教育学、カリキュラム・教育方法論を専門に研究している。近著（共編）に『公教育の再編と福祉（全2巻）』（明石書店、2024年9月刊行予定）。訳書に『批判的教育学事典』（明石書店、2017年）など。

川口 広美（かわぐち・ひろみ） 広島大学大学院人間社会科学部研究科准教授 ※オンライン登壇



1982年熊本県生まれ。広島大学大学院教育学研究科修了。滋賀大学を経て、2017年より現職。学校教育とシティズンシップ育成について、教科教育・カリキュラム・教師教育の視点から研究している。著書に『イギリス中等学校のシティズンシップ教育』（風間書房、2017年）、Lesson Study-Based Teacher Education（共編著、Routledge、2021年）。

奈須 正裕（なす・まさひろ） 上智大学総合人間科学部教授



1961年徳島県生まれ。徳島大学教育学部卒、東京学芸大学大学院、東京大学大学院修了。専門は教育心理学、教育方法学。国立教育研究所、立教大学などを経て、2005年から現職。中央教育審議会教育課程部会長。著書に『「資質・能力」と学びのメカニズム』（2017年）、『個別最適な学びと協働的な学び』（2021年）など。

佐久間 亜紀（さくま・あき） 慶應義塾大学教職課程センター教授



1968年生。早稲田大学卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。スタンフォード大学客員研究員などを経て現職。専門は、教育方法学、教職論。教師の力量形成の方法やその歴史を研究すると共に、各地の学校現場で授業づくりに取り組んでいる。著書は『アメリカ教師教育史』（2017年、第13回平塚らいてう賞受賞）、『現代の教師論』（2019年）、『教育論の新常識』（2021年）『公教育を問い直す』（2023年）等。

【会場へのアクセス・キャンパスマップ】 下記 URL、または QR コードをご利用ください。

- ① 四谷キャンパス アクセスマップ：<https://x.gd/bnYR0>
- ② 四谷キャンパスマップ（立体図）：<https://x.gd/0eipO>
- ③ 四谷キャンパスマップ（平面図）：<https://x.gd/JtD7C>
- ④ 全キャンパス アクセスガイド：<https://x.gd/Z8sRI>

（当日は、北門のご利用が便利です。）



左から①、②、③、④です。

ご来場をお待ちしております。

